

公益財団法人日本アレルギー

一協会関東支部

〒102-0074

東京都千代田区九段南 4-5-11

富士ビル4階

TEL 03-3222-3437

FAX 03-3222-3438

ホームページ

<http://www.jaanet.org/office/kanto.html>

関 東 支 部

だ よ り

第 12 号 (2012 年 6 月 発行)

(本紙は日本アレルギー協会関東支部ホームページにも掲載されています)

1. はじめに

内外多難の状況ではありますが、会員の皆様方にはご健勝、ご活躍のことと存じます。

さて、本年4月に、日本アレルギー協会の次期理事改選がおこなわれ、関東支部からは支部正会員の互選により秋山一男、足立 満、伊藤幸治、宮本昭正の各理事が再選されました。会員の皆様にはご多忙中、選挙にご協力いただき、ありがとうございました。次いで全国からの次期理事17名の互選により次期理事長に宮本昭正現理事長が再選されました。また関東支部選出理事・評議員による選挙で次期支部長に伊藤幸治現支部長が再選されました。本年6月1日に理事会が開催されたので、その報告をいたします(第2頁)。尚、以上の新人事(第9頁ご参照)は本年6月15日開催の本部評議員会で承認されました。また本年7~12月の各種アレルギー関連行事予定も掲載いたしました(第3~7頁)。当関東支部では、地区委員会のご努力と会員皆様のご協力で、アレルギー週間での一般向け講演会が長野、山梨、埼玉、千葉、千葉東、東京城北、東京城東中央、神奈川の8ヶ所で盛況裡に開催されました(第8~10頁ご参照)。本年10月6日に医師向け「アレルギー研修会2012」が横浜で開催されます(第10頁)。最後に、今回のトピックスとして編集部より今春の第52回日本呼吸器学会学術講演会で大田 健先生(独立行政法人国立病院機構 東京病院院長)が司会された国際シンポジウム「喘息の病因、治療最近の進歩」の内容を紹介します(第11~12頁)。今後も当支部を含め日本アレルギー協会の活動に対する会員皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

平成24年6月 関東支部長 伊藤 幸治

本号の目次

頁

1. はじめに	支部長	1
2. 公益財団法人日本アレルギー協会理事会報告		2
3. 患者団体講演会、集会（関東支部地域 平成 24 年 7～12 月分）		3～4
4. 一般社団法人日本アレルギー学会専門医制度における認定学会（日本アレルギー学会と同関連学会 7～12 月分）		5
5. 一般社団法人日本アレルギー学会専門医制度における認定学会・講習会・研究会（4 と同）		6～7
6. 公益財団法人日本アレルギー協会理事、監事、評議員（平成 24 年 6 月 20 日現在）		7
7. 平成 23 年度関東支部事業概要		8～10
8. 公益財団法人日本アレルギー協会共催「アレルギー研修会 2012：横浜」		10
9. トピックス 第 52 回日本呼吸器学会学術講演会国際シンポジウム「喘息の病因、治療最近の進歩」より	編集部	11～12

2. 公益財団法人日本アレルギー協会理事会報告

（公財）日本アレルギー協会理事会（理事長 宮本昭正先生）が平成 24 年 6 月 1 日、KKR ホテル東京で開催されました。審議し承認された主な点を以下に記します。

（1）本年度本部事業計画

- ① 国際交流助成金を 3 名に交付する。
- ② 真鍋奨学助成に 38 件の応募があり同委員会で審査中である。
- ③ 第 19 アレルギー週間は平成 25 年 2 月 17 日（日）～23 日（土）とし、「アレルギーの克服に向けて」のテーマで、昨年度と同様に 1) アレルギー週間の広報、2) 一般向けアレルギー講演会を含む一般向け啓発活動をおこなう。
- ⑥ 患者相談協力専門医等名簿を発行する（10 月に発行予定）。⑦ アレルギー No. 41 を発行する。
- ⑧ 実地医家向け「アレルギー研修会 2012」を横浜で開催する（第 12 頁参照）。
- ⑨ 賛助会員（企業）向け「アレルギー研修会 2012」を開催する。

（2）支部事業計画

昨年度は各支部で一般向け講演会、医家向け研究会等が活発に開催されたが本年度も同様に開催予定である。

3) その他 平成 23 年度末の個人会員数は 1175 名（正会員 1096、一般会員 79、関東支部総計 340 名）で前年度（1085 名）より 90 名増加であるが一層の増加が望まれた。（文責 支部長）

3. 患者団体講演会、集会（当関東支部：東京都、長野・山梨・埼玉・千葉・神奈川の各県分、

2012年7月～12月） 会員以外の方でも自由に参加できます。

日時	会名	会場	主催団体、連絡先
8月26日（日） 14:00～16:00	夏期特別講演会 「EP模擬試験および試験の解説」 「アレルギー遠隔教育学院について」	東京都港区 麻布区民センター 区民ホール 地下鉄 日比谷線・大江戸線: 六本木駅下車 3 番出口徒歩 6 分 地下鉄南北線・大江戸線: 麻布十番駅下車 7 番出口徒歩 10 分	NPO 法人環境汚染等から呼吸器病患者を守る会(通称:エパレク) 事務局 (事前申込: 必要) http://eparec.com/ E-mail: eparec@nifty.com TEL 03-6272-9413 FAX.03-6272-9414
9月15日（土） 9:30～11:30	第3回 患者勉強会 第7回 懇親会・勉強会 年4回	ラクアル・オダサガ 小田急線「小田急相模原」駅 北口すぐ	NPO 法人 相模原アレルギーの会 (事前申込: 必要) http://www.sagamihara-allergy.or.jp/ E-mail: allergy-net@jcom.home.ne.jp TEL: 042-745-8801
9月22日（祝） 12:30～16:00	講演会「これってアトピー？ 食物アレルギー？」 座長: 西間三馨（小児科）、講師: 今井孝之（小児科）、渡辺博子（小児科）	鶴見公会堂（横浜市鶴見区） JR線・京浜急行線 鶴見駅 下車徒歩2分	NPO 法人アレルギーを考える母の会 定員: 先着 500 名（事前申込: 必要） 保育 30 名まで http://www.hahanokai.org/ FAX :045-362-3106 E-mail: m-sonobe@cf6.so-net.ne.jp
10月27日（土）予定 12:30～16:30	患者相談会 司会: 秋山一男（内科） 講師: 未定	神奈川障害者職業能力開発校 ホール 小田急線「小田急相模原」駅 下車徒歩 15 分(相模原病院裏)	NPO 法人 相模原アレルギーの会 (事前申込: 必要) http://www.sagamihara-allergy.or.jp/ E-mail: allergy-net@jcom.home.ne.jp TEL: 042-745-8801
11月18日（日） 12:30～16:00	講演会とQ&A 講師: 大利隆行（内科） 未定（皮膚科）	未定	認定 NPO 法人日本アレルギー友の会 TEL 03-3634-0865 (毎週火・土曜日 11:00～16:00) (事前申込: 必要) FAX 03-3634-0850 http://www.allergy.gr.jp/ E-mail: jallergy@nifty.com
12月1日（土） (時間未定)	食物アレルギーを持つ人のための調理実習	ウェルネスさがみはら（相模原市中央区） JR 相模原駅からバスで「市役所前」下車すぐ	NPO 法人 相模原アレルギーの会 (事前申込: 必要) http://www.sagamihara-allergy.or.jp/ E-mail: allergy-net@jcom.home.ne.jp TEL: 042-745-8801

12月2日(日) 13:00~17:00	特別講演会 「ぜん息と心理的諸問題」	港区内会場	NPO 法人環境汚染等から呼吸器病患者を守る会(通称:エパレク)事務局 (事前申込:必要) http://eparec.com/ E-mail: eparec@nifty.com TEL 03-6272-9413 FAX.03-6272-9414
毎月第2土曜日 13:00~17:00 (1月は休会)	ぜん息学習会	港区高輪コミュニティーぶらざり内3階 高輪区民センター 地下鉄南北線・三田線「白金高輪」駅下車、1番出口 (駅の真上です。)	NPO 法人環境汚染等から呼吸器病患者を守る会(通称:エパレク)事務局 (事前申込:不要) http://eparec.com/ E-mail: eparec@nifty.com TEL 03-6272-9413 FAX.03-6272-9414
毎月第3土曜日 13:00~15:00	患者交流会(ぜんそく・アトピー性皮膚炎)	NPO 法人日本アレルギー友の会事務所(都営新宿線・半蔵門線住吉駅、JR 錦糸町駅より都バス「住吉駅前」下車徒歩3分)	認定 NPO 法人日本アレルギー友の会 TEL 03-3634-0865 (毎週火・土曜日 11:00~16:00) ※ 要予約 FAX 03-3634-0850 http://www.allergy.gr.jp/ E-mail: jallergy@nifty.com
毎月第4火曜日(祝日も開催) 10:00~12:00	アレルギー相談・患者交流会 「ちょっと chat の会」 どなたでもお気軽に。 出入り自由です。	かながわ県民センター 15 階 セルフヘルプ相談室 1 (「横浜」駅西口徒歩5分 横浜市鶴屋町 2-24-2) TEL045-312-1121 (内 3501) FAX 相談 045-312-6307	NPO 法人アレルギーを考える母の会 http://www.hahanokai.org/ FAX :045-362-3106 E-mail: m-sonobe@cf6.so-net.ne.jp
(1) 毎月1回/不定期 9:30~11:30 (2) 奇数月/不定期 10:00~12:00 (HPでお知らせします)	(1)しゃべり場/自由が丘: (2)しゃべり場/八王子 入退場は自由です。ご家族でお出かけください。親が自由にお喋りをする場。初歩的な質問大歓迎です。 ■5人集まれば、どこでも「出張しゃべり場」を開催します。(例:教育機関、児童館、保健所、病医院等)	(1)目黒区緑ヶ丘文化会館第2研修室(自由が丘駅から徒歩7分) (2)八王子市民活動支援センター(八王子駅から徒歩3分)	NPO 法人アレルギー児を支える全国ネット「アラジーポット」 http://www.allergypot.net TEL090-4728-5421 (事前申込:不要) E-mail: marikuri@allergypot.net

4. 一般社団法人日本アレルギー学会専門医制度における認定学会（日本アレルギー学会と同関連学会）（2012年7月～12月）

以下は一般社団法人日本アレルギー学会の許可を得て、同会誌「アレルギー」2011年12月号（60巻12号）1648-1657頁、会報「専門医制度情報 社団法人日本アレルギー学会専門医制度における認定学会・講習会・研究会開催予定（2012年・国内）」およびインターネット同学会公式サイト「社団法人日本アレルギー学会：専門医制度にかかわる各種開催案内」より7～12月の日本アレルギー学会と同関連学会（*）のみ抜粋して掲載した。

会	会名	会期	会場	担当施設・連絡先	会長・TEL
42 *	日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会	7月13日（金） ～15日（日）	軽井沢プリンスホテルウエスト	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科皮膚科学分野 〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45	横関博雄 03-5803-5286
6 *	相模原臨床アレルギーセミナー	8月3日（金） ～5日（日）	パシフィコ横浜	独立行政法人国立病院機構相模原病院臨床研究センターアレルギー性疾患研究部気管支喘息研究室 〒252-0392 神奈川県相模原市南区桜台18-1 TEL 042-742-9721 FAX 042-742-7990	谷口正実 042-742-9721
42	日本アレルギー学会専門医教育セミナー	8月26日（日） 10：00～16：30	総評会館（東京）	一般社団法人日本アレルギー学会 〒110-0005 東京都台東区上野1-13-3	03-5807-1701
49 *	日本小児アレルギー学会	9月15日（土） ～16日（日）	大阪国際会議場	大阪府済生会中津病院小児科・免疫・アレルギーセンター 〒530-0012 大阪府大阪市北区芝田2-10-39	末廣 豊 06-6372-0333
51 *	日本鼻科学会総会・学術講演会	9月27日（木） ～29日（土）	千葉市		
40 *	日本臨床免疫学会総会	9月27日（木） ～29日（土）	京王プラザホテル（東京）	順天堂大学医学部膠原病内科 〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1	高崎芳成 03-3813-3111
66 *	日本臨床眼科学会	10月25日（木） ～28日（日）	国立京都国際会議館・グランドプリンスホテル京都	京都大学大学院医学研究科眼科学	吉村長久
62	日本アレルギー学会秋季学術大会	11月29日（木） ～12月1日（土）	大阪国際会議場（大阪）	近畿大学医学部呼吸器・アレルギー内科 〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東377-2 TEL：072-366-0221 Fax：072-367-7772	東田有智
41 *	日本免疫学会学術集会	12月5日（水） ～7日（金）	神戸国際会議場	大阪大学微生物病研究所癌抑制遺伝子研究分野	審良静男

5. 一般社団法人日本アレルギー学会専門医制度における認定学会・講習会・研究会（当関東支

部：東京都、長野・山梨・埼玉・千葉・神奈川の各県分、2012年7月～12月）

以下は一般社団法人日本アレルギー学会の許可を得て、同会誌「アレルギー」2011年12月号（60巻12号）1648-1657頁、会報「専門医制度情報 社団法人日本アレルギー学会専門医制度における認定学会・講習会・研究会開催予定（2012年・国内）およびインターネット同学会公式サイト「社団法人日本アレルギー学会：専門医制度にかかわる各種開催案内」より山梨、長野県を含む関東支部地区7月～12月分を抜粋して転載した（日本アレルギー学会と関連学会は第7頁に掲載）。なお、同号で（未定）となっていた部分は、当方より問い合わせで判明した場合、補充した。

回	会名	会期	会場	担当施設・連絡先	会長・TEL
33	日本炎症・再生医学会**	7月5日（木） ～6日（金）	ホテル日航福岡	（事務局）産業医科大学医学部第1 内科学講座 〒807-8555 福岡県北九州市八幡西 区医生ヶ丘1-1 （運営準備室）日本コンベンショ ンサービス（株） 〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-2 大同生命霞が関ビル 18 階 TEL03-3508-1214	田中良哉
22	国際喘息学会日本・北アジア部会**	7月6日（金） ～7日（土）	九州大学医学部百 年講堂	（独）国立病院機構福岡病院 〒811-1394 福岡県福岡市南区 屋形原4-39-1	岩永知秋 092-565-5534
35	吸入療法研究会	7月14日（土） 13:00～18:00	大手町サンケイブ ラザ	和歌山県立医科大学内科学第三講 座 〒641-8509 和歌山県和歌山市 紀三井寺811-1	田村 弦 073-441-0619
40	埼玉喘息・アレルギー研究会	8月の（土） 予定 14:40～18:25	埼玉県県民健康セ ンター	自治医科大学附属さいたま医療セ ンター呼吸器科 〒330-8503 埼玉 県さいたま市大宮区天沼町1-847	小山信一郎 048-647-2111
11	千葉県喘息吸入療法研究会	9月6日（木） 19:00～21:00	京成ホテルミラマ ーレ	（事務局）中島裕史 千葉大学大学院医学研究院遺伝子 制御学 〒260-8670 千葉県千葉市 中央区亥鼻1-8-1 TEL:043-226-2198	（世話人） 西牟田敏之
61	関東耳鼻咽喉科アレルギー懇話会	9月9日（日） 14:00～17:00 （予定）	日本教育会館（東 京）	日本医科大学武蔵小杉病院耳鼻咽 喉科 藤倉輝道 〒211-8533 神奈川 県川崎市中原区小杉町1-396	大久保公裕 03-3822-2131
4	多摩気管支喘息研究会	10月4日（木） 19:00～21:00	パレスホテル立川	杏林大学医学部第一内科 〒 181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2	後藤 元 0422-47-5511
31	多摩小児アレルギー臨床懇話会	10月13日 （土） 15:00～18:00	日本医科大学附属 多摩永山病院 C棟2階集会室	山口小児クリニック 〒195-0063 東京都町田市野津田町 1364 TEL042-736-1121	飛田正俊
5	鼻アレルギーフォーラム in Saitama	10月18日 （木） 18:45～21:00	浦和ロイヤルパイ インズホテル	埼玉医科大学耳鼻咽喉科 〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町 毛呂本郷38	加瀬康弘 049-276-1253

30	呼吸器・免疫シンポジウム	10月13日 (土) 14:00~18:00	トップオブスクエ ア 千代田区大手 町 1-5-1 大手町 ファーストスクエ アウエストタワー 23F	呼吸器・アレルギー疾患研究所 〒107-0062 東京都港区南青山1-3-1 パーク アクシス青山一丁目タワー2106	足立 満 03-6804-2671
9	城南小児アレルギー懇話会	10月	目黒雅叙園	(財)東京都保健医療公社荏原病 院小児科 松井猛彦 〒145-0065 東京都大田区東雪谷 4-5-10	松井猛彦 03-5734-8000
14	東京ロイコトリエン研究会 2012	11月10日 (土) 午後(予定)	(未定)	新橋アレルギー・リウマチクリニ ック 〒105-0004 東京都港区新橋2-16-1 ニュー新橋ビル318	宮本昭正 03-3591-5464
13	信州喘息・COPD Management Forum (旧:信州喘息・COPD 勉強会)	11月10日 (土) 17:00~19:00	浜の湯(諏訪市)	諏訪赤十字病院 〒392-8510 長野県諏訪市湖岸通り 5-11-50	(当番世話人) 蜂谷 勤 0266-52-8111
37	臨床アレルギー懇話会	11月15日 (木) 19:00~	東京慈恵会医科大 学南講堂	東京慈恵会医科大学小児科 〒105-8471 東京都港区西新橋 3-25-8	(当番世話人) 田知本 寛 03-3433-1111
70	臨床アレルギー研究会(関東)	2012年秋	富国生命ビル28階	(未定)	(未定)
23	城東地区小児アレルギー懇話会	(未定)	(未定)	(未定)	(未定)

* * 関東支部地域開催ではないが特に記載した。

6. 公益財団法人日本アレルギー協会理事、監事、評議員(平成24年6月20日現在)

	理事長 宮本 昭正	
北海道	理事 有賀 正 (支部長)	評議員 高橋 裕樹
東北	同 田村 弦 (支部長)、山内 広平	同 高梨 信吾、棟方 充
北関東	同 土橋 邦生 (支部長)	同 鈴木 栄一
関東	同 伊藤 幸治 (支部長) 秋山 一男、足立 満、宮本 昭正 (理事長)	同 大久保公裕、大田 健 岡本 美孝、西牟田敏之
東海	同 高木 健三 (支部長)	同 近藤 直実
北陸	同 眞弓 光文 (支部長)	同 藤村 政樹
関西	同 東田 有智 (支部長)、川瀬 一郎	同 末廣 豊、竹中 洋
中国	同 宗田 良 (支部長)	同 秀 道広
四国	同 西岡 安彦 (支部長)	同 大串 文隆
九州	同 西間 三馨 (支部長)	同 久保 千春
本部	同 今村 聡、松尾 紀彦	
	監事 岩本 逸夫、佐野 靖之	

なお、平成24年6月現在の関東支部評議員会リストは関東支部だより前号をご覧ください(変更はありません)。

7. 平成 23 年度関東支部事業概要

実施事業	概要
<p>1. 研究助成事業</p> <p>1) 自由課題研究助成</p> <p>(1) オシレーション法 (MostoGraph-01) を用いた閉塞性肺疾患における可逆性気流制限の臨床的検討</p> <p>(2) 気管支喘息患者に対する病診連携の効果に関する調査</p> <p>2) 学術交流研究助成</p>	<p>西川正憲 (藤沢市民病院)</p> <p>研究期間: 平成23 年9 月~平成24 年8 月</p> <p>駒瀬裕子 (神奈川呼吸器疾患研究会)</p> <p>研究期間: 平成23 年8 月~平成26 年3 月</p> <p>AR Forum 2011</p>
<p>2. 啓発活動</p> <p>1) 第18 回アレルギー週間</p> <p>(1) 埼玉地区市民公開講座2011</p> <p>日時: 平成24 年2 月4 日 (土)</p> <p>場所: アコスホール (草加市)</p> <p>参加人数: 約 50 名</p> <p>(2) 東京城北地区市民公開講座</p> <p>日時: 平成24 年2 月5 日 (日)</p> <p>場所: 帝京大学本部棟会議室 (板橋区)</p> <p>参加人数: 約 30 名</p> <p>(3) 山梨アレルギー市民フォーラム2012</p> <p>日時: 平成24 年2 月5 日 (日)</p> <p>場所: 山梨大学医学部臨床小講堂</p> <p>参加人数: 132 名</p> <p>(4) 千葉ブロック東部地区市民公開講座</p> <p>日時: 平成24 年2 月12 日 (日)</p> <p>場所: 成田市保健福祉会館 (成田市)</p> <p>参加人数: 80 名</p>	<p>司会: 永田 真 (埼玉医科大学アレルギーセンター、同呼吸器内科)</p> <p>講演: 當間由子 (東松山市立市民病院皮膚科)</p> <p>「アトピー性皮膚炎」</p> <p>倉島一喜 (埼玉県立循環器呼吸器センター呼吸器内科)</p> <p>「気管支喘息」</p> <p>飯野ゆき子 (自治医科大学附属さいたま医療センター耳鼻咽喉科)</p> <p>「スギ花粉症」</p> <p>司会: 山口正雄 (帝京大学医学部 呼吸器・アレルギー内科)</p> <p>講演1: 大田 健 (帝京大学医学部 呼吸器・アレルギー内科)</p> <p>「成人ぜん息の最新治療」</p> <p>講演2: 飯野ゆき子 (自治医科大学附属さいたま医療センター耳鼻咽喉科)</p> <p>「アレルギー性鼻炎の最新情報」</p> <p>質疑応答</p> <p>司会: 増山敬祐 (山梨大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科)</p> <p>講演: 高橋 博 (山梨大学医学部眼科学講座)</p> <p>「眼科領域のアレルギー疾患について」</p> <p>増山敬祐 (山梨大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科)</p> <p>「花粉症について」</p> <p>石原 裕 (山梨大学医学部内科学講座第2 教室)</p> <p>「気管支喘息について」</p> <p>塚本克彦 (県立中央病院皮膚科)</p> <p>「アトピー性皮膚炎について」</p> <p>池田久剛 (山梨厚生病院小児科)</p> <p>「食物アレルギーについて」</p> <p>テーマ「アレルギー・アトピーの克服に向けて—花粉症とぜん息を一緒に考えましょう—」</p> <p>第1 部: 特別講演</p> <p>司会: 鳥居敏明 (鳥居内科医院)</p> <p>講演: 岡本美孝 (千葉大学大学院医学研究院耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学)</p> <p>「アレルギー性鼻炎/ 花粉症について」</p> <p>司会: 関根邦夫 (せきねこどもクリニック)</p> <p>講演: 西牟田敏之 (国立病院機構下志津病院小児アレルギー科)</p> <p>「小児ぜん息のコントロール」</p>

<p>(5) 信州アレルギー市民公開講座2012 日時：平成24年2月18日（土） 場所：JA 長野県ビル会議室（長野市） 参加人数：約60名</p> <p>(6) 千葉ブロック千葉地区市民公開講座 日時：平成24年2月19日（日） 場所：プラザ菜の花（千葉市） 参加人数：45名</p> <p>(7) 神奈川県アレルギー患者相談会 日時：平成24年2月19日（日） 場所：横浜新都市ビル（そごう）9階 参加人数：約100名</p>	<p>第2部：質問コーナー 司会：平栗雅樹（成田赤十字病院） 松山 剛（県立佐原病院） 回答者：岩本逸夫（国保旭中央病院） 永山博敏（国保旭中央病院） 特別講演者2名 テーマ「アレルギー疾患は克服できます！」 司会：久保恵嗣（信州大学医学部附属病院 呼吸器センター 呼吸器・感染症内科） 藤本圭作（信州大学医学部保健学科） 講演：茂木英明（信州大学医学部耳鼻咽喉科学講座） 「快決！くしゃみ、鼻水、鼻づまり～アレルギー性鼻炎～」 木庭幸子（信州大学医学部皮膚科学講座） 「アレルギーと皮膚～アトピー性皮膚炎を中心に～」 小林法元（信州大学小児科学講座） 「小児期のアレルギー性疾患～食物アレルギーと気管支喘息～」 宮原隆成（JA 長野厚生連長野松代総合病院呼吸器内科） 「喘息死ゼロを目指して」</p> <p>第1部：特別講演 司会：板谷喬起（板谷内科クリニック） 講演：星岡 明（千葉県こども病院アレルギー・膠原病科） 「小児ぜん息」 中島裕史（千葉大学大学院医学研究院アレルギー・膠原病内科） 「成人ぜん息」 司会：岡本美孝（千葉大学大学院医学研究院耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学） 講演：米倉修二（千葉大学大学院医学研究院耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学） 「アレルギー性鼻炎/花粉症」 神戸直智（千葉大学大学院医学研究院皮膚科学） 「アトピー性皮膚炎」</p> <p>第2部：質問コーナー 司会：松村竜太郎（国立病院機構千葉東病院） 椿 俊和（つばきこどもクリニック） 回答者：特別講演者4名 講演：『アレルギーへの対処方法、アレルゲン回避 vs 免疫療法』 講師：海老澤元宏（国立病院機構相模原病院） 個別相談相談員： 小児科（食物アレルギー・アトピー性皮膚炎・小児喘息など） 高増哲也（神奈川県立こども医療センター） 海老澤元宏（国立病院機構相模原病院） 皮膚科（成人アトピー性皮膚炎・じんましん など） 川口博史（金沢皮膚科） 朝比奈昭彦（国立病院機構相模原病院） 内科（成人喘息・アレルギー性鼻炎など） 谷口正実（国立病院機構相模原病院） 秋山一男（国立病院機構相模原病院）</p>
---	---

<p>(8) 東京城東・中央地区講演会 日時：平成24年3月17日(土) 場所：同愛記念病院大会議室 参加人数：約60名</p>	<p>テーマ「成人のアレルギー」 司会・進行：佐野靖之(東京アレルギー・喘息研究所所長) 講演：黨 康夫(同愛記念病院アレルギー呼吸器科部長) 「気管支喘息について」 齊藤孝夫(同愛記念病院耳鼻咽喉科部長) 「アレルギー性鼻炎(特に花粉症)について」 金子健彦(同愛記念病院皮膚科部長) 「アトピー性皮膚炎～上手に手なづけるこつ～」 アレルギー相談・質疑応答 医師全員</p>
<p>3. 患者会への援助</p>	<p>アレルギー患者会活動(行事)に対する援助 援助先：NPO法人日本アレルギー友の会、NPO法人相模原アレルギーの会</p>
<p>4. 広報活動</p>	<p>「関東支部だより」の発行 関東支部個人会員向けに第10号(6月)、第11号(1月)発行、配布</p>
<p>5. 会議の開催</p>	<p>関東支部評議員会開催 平成23年8月3日(水)</p>

8. 公益財団法人日本アレルギー協会共催 「アレルギー研修会2012：横浜(アレルギー治療の最前線)」 2012年10月6日

<p>目的</p>	<p>全国の実地医家を対象に、アレルギー診療に役立つ最新の専門情報を専門医から提供する。</p>
<p>会名・タイトル</p>	<p>アレルギー研修会2012：横浜・「アレルギー治療の最前線」</p>
<p>日時(予定)</p>	<p>2012年10月6日土曜日 午後2時～4時</p>
<p>会場(予定)</p>	<p>神奈川県医師会館</p>
<p>講演(予定)</p>	<p>①：テーマ「アレルギー性鼻炎治療：最新の話題」(仮) 島根大学耳鼻咽喉科 川内 秀之 教授 ②：テーマ「アレルギー性皮膚疾患：最新の話題」(仮) 日本医科大学千葉北総病院 幸野 健 准教授(予定)</p>
<p>共催(予定)</p>	<p>公益財団法人日本アレルギー協会、公益社団法人神奈川県医師会、サノフィ・アベンティス株式会社</p>
<p>後援(予定)</p>	<p>社団法人日本医師会、一般社団法人日本アレルギー学会</p>
<p>単位</p>	<p>日本医師会生涯教育講座2単位(CC:2.9.39.73) 日本アレルギー学会専門医制度業績単位(参加者2単位)</p>
<p>運営</p>	<p>日本アレルギー協会の委託により、アレルギー研修会事務局(株式会社ジャパン・カウンセラーズ内)が担当 Tel:03-3523-8210, Fax:03-3523-8211, E-mail: allergy@jc-inc.co.jp</p>

9. トピックス 第 52 回日本呼吸器学会学術講演会国際シンポジウム

「喘息の病因、治療最近の進歩」より

編集部

外国から 3 人の先生より重症喘息の基礎的あるいは臨床的研究に関し自己のデータを入れてレビューがなされた。日本からは 2 人の先生よりそれぞれ独自の研究に関する講演があった。それらの一部を紹介する。

1. 重症喘息治療の新展開（米国デューク大学、M. クラフト先生）

重症喘息の治療法は高用量の吸入ステロイドと持続性 β 刺激薬の治療が限定的であった場合の治療選択の道筋を示す新しい試みである。

現在、焦点は一層効果的な治療の手引きとなるフェノタイプ（表現型）決定に向けられている。

2 型ヘルパー T 細胞（Th2）性あるいは好酸球性フェノタイプはステロイドに、より反応性のフェノタイプと認識されてきている。また IL-5 および IL-13 のような Th2 サイトカイン抑制を目的とした生物製剤が効果を持つ事もまた認識されてきている。

重症喘息の非好酸球性フェノタイプは低顆粒球数性あるいは好中球優位性のフェノタイプを含んでおり、マクロライド系抗生物質、チオトロピウム、あるいは気管支形成術などの非ステロイド的な治療選択肢に、より反応を示すことがある。医薬品/生物製剤に加えて副鼻腔炎、閉塞性睡眠時無呼吸症、胃食道逆流症などの合併症の同定と治療にも焦点があてられるべきである。また、服薬遵守、喘息コントロールの要素に関する患者教育にも焦点が当てられるべきである。

2. 慢性気流制限と気道平滑筋（英国国立心肺研究所、K.F. チャング先生）

慢性気流制限とステロイド抵抗性は気道壁のリモデリング、基底膜下の肥厚、気道平滑筋量増大等を伴う重症喘息における重要な 2 特徴である。重症喘息の気道平滑筋から得た細胞は高増殖性と炎症惹起性の性質を持っている。この異常性質はクロマチンのリモデリングによると思われ、microRNA、miR-221 が極めて重要である。重症喘息患者から得たこれらの細胞はステロイド非感受性である。このメカニズムの一部は核のトランスロケーション障害および p38MAPK 活性化障害性と関連したステロイドレセプター消失であろう。

好酸球の存在はステロイド感受性と考えられ、一方好中球の存在はステロイド非感受性と考えられているが、その根底にあるメカニズムは不明である。

ステロイド感受性の回復は新しい抗炎症薬の発見と同様、一つのアプローチ方法である。

結論として慢性閉塞性喘息は重症喘息のもつひとつの明確な性質である。その気道平滑筋は高増殖性で炎症惹起性であり、ステロイド非感受性である。またオキシダントに対する防御が障害されている。気道平滑筋を標的とすることは慢性閉塞性喘息を回復するのに役立つだろう。

しかしながら、個々のフェノタイプに対する選択的治療を目標にすることが大切である。

3. 喘息のフェノタイプ（表現型）分類は喘息コントロールとメカニズム解明に役立つ（オースト

ラリア ニューキャッスル大学、P.G. ギブソン先生）

ステロイドの継続療法により喘息コントロールは世界的に改善されたが、その一方で、効果の低いあるいは全く効果のない患者群が存在する。この群のコントロールには新しいアプローチが必要で、フェノタイプ分類が有用である。これには臨床的フェノタイプ分類と生物学的な炎症型分類がある。前者には肥満タイプの喘息、COPD とオーバーラップすることが多い高齢者喘息が含まれる。後者には喀痰中の好酸球像による分類、呼気 NO 値による分類が含まれ治療結果改善に役立つ。非好酸球型喘息の研究により新しい喘息のメカニズムとして TLR-2 を介する自然免疫活性化と全身炎症が存在することが明らかになった。

常に経口ステロイドを必要とする難治性重症の喘息のグループは炎症面から見て以下 3 つのフェノタイプに大別される。①血清 IgE 値上昇群。オマリズマブ（抗 IgE）、抗 IL-13、イトラコナゾール（これはアレルギー性

気管支肺アスペルギルス症の場合)の適応である。②好酸球性群。経口/筋注ステロイドの適応である。③好中球性群。マクロライド系抗生物質の適応である。マクロライドは喀痰中の IL-8(好中球遊走作用を持つ)と好中球を減少させ、また患者のQOLを向上させる。

高齢者喘息は診断不足、治療不足になりがちで、高死亡率を示す。喘息と慢性閉塞性肺疾患(COPD)とオーバーラップがあり、肺の自然的あるいは炎症による機能低下も伴い、まぎらわしい他疾患との合併もある。現在のアプローチはこのグループに有効でない。最近、喘息とCOPDのオーバーラップ群で重症度に比例してオンコスタチンが上昇していることが示された、オンコスタチンはIL-6に近縁の物質で、T細胞、好中球、マクロファージで産生され、血管内皮細胞活性化、顆粒球補充作用、線維芽細胞・気管支平滑筋増殖作用などを有し、炎症とリモデリングを結びつける物質であるかも知れない。

肥満タイプの喘息は一般にコントロール不良であり、ステロイド抵抗性で、1秒率低下、およびCRP上昇・アディポカイン(レプチン・アディポネクチン)異常など全身性炎症所見が見られる。女性の肥満タイプの喘息では喀痰中に好酸球ではなく好中球が増加しており、食事療法による体重減少が効果を示す。

喘息は妊娠に合併する最も多い疾患で増悪もある。吸入ステロイドの適切な必要量を決める手段として臨床症状と呼気中一酸化窒素(FeNO)とを比較すると後者を用いた方が急性増悪がすくなかった。

4. 成人喘息と喘息重症度に関連する遺伝要因(理研 玉利真由美先生)

玉利先生は日本人の成人喘息に関連する遺伝子研究の結果、以下の5遺伝子を同定された。

① 6p21 これは1秒率に関連するSNPの近くに存在する。②10p14:GATA3の1MB下流にある。③12q13:IKZF4を含む遺伝子に富む領域。④4q31:USP38/GAB1。⑤5q22:TSLP/WDR36。これはTSLP関連遺伝子である。TSLPは気道上皮で産生され、Th2型免疫反応を生ぜしめる。ウイルス感染、アルテルナリア(環境真菌)、およびタバコはTSLPの産生を促す。ステロイドとLABAは共同して気道上皮のポリICに対するTSLP産生を抑制する。

また同先生は肺炎クラミジア感染が高齢者の慢性閉塞性肺疾患および喘息で重要な役割を果たしていることを示された。

5. 多機能蛋白オステオポンチンの役割からみたアレルギー、喘息発症機序の理解

(北海道大学呼吸器科 今野 哲先生)

今野先生はアレルギー免疫療法効果の原因を知るために、蜂毒による免疫療法の前後で変化する物質を探されたところ、血液中のオステオポンチン(OPN)が上昇しており、それと共に抗蜂毒IgE抗体が減少していた。OPNは1979年に発見されている物質で、骨の基質に含まれるリン酸化糖蛋白であり、Eta-1(early T lymphocyte activation protein 1)あるいはSPPI(secreted phosphoprotein I)とも称されている。そこで、OPNとアレルギー、喘息との関係を調べたところ、以下のような多機能を有することが明らかになった。

- ① ヒトで蜂毒免疫療法後OPN発現が増強する。
- ② マウスで全身のアレルギー感作を抑制する(抗OPNも同様効果があるとのデータもある)。
- ③ ヒトおよびマウスでIgEを介する肥満細胞の脱顆粒を増強し、肥満細胞の走化性を誘導する。
- ④ ヒトのアレルギー性結膜炎の涙液中で高レベルに存在する。アレルギー性鼻炎の粘液中でも同様である。
- ⑤ ヒトおよびマウスの好酸球走化性を誘導する。
- ⑥ マウスでコラーゲンの沈着を誘導する。
- ⑦ マウスで気道のリモデリングを誘導する。
- ⑧ ヒトの重症難治性喘息の喀痰に高レベルで存在し、肺組織で高発現がみられる。

以上より抗OPN抗体の治療標的となる喘息のフェノタイプとしては以下が考えられ、期待がもたれる。

- ① 気道でOPNの高発現があり、喀痰あるいは血清中OPN値の高い患者
- ② 高用量のステロイド使用中の好酸球性喘息で喀痰中好酸球%の高い患者
- ③ 気道にTGF-βの高発現があり将来急速な気道リモデリングが進行すると思われる患者

文責 編集部 伊藤 幸治